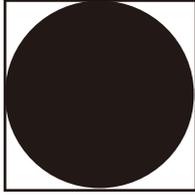


InSEA



# 公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 164

2022. 4

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 佐藤仁美・北川智久

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

## 図画工作科教育法オンライン授業の試行的実践

公益社団法人 日本美術教育連合理事 山口喜雄

2019年1月、日本で新型コロナ初感染を確認。翌年4月教員養成は歴史的な転換となる「オンライン授業」が一般化しました。LMS（学習管理システム：Learning Management System）の操作性だけがクローズアップされがちでしたが、理念と結びついた実践が大切と考えます。その試行を記述します。

図画工作が不得意な受講生でも安心して受講でき、授業者となっても重要な二つの理念があります。一つは個人の尊重、授業者に不可欠な理念形成として憲法第十三条「すべて国民は、個人として尊重される」。もう一つは、「授業は、子どもたちに対する教師の愛情表現である」という授業観（文部省編『新しい学力観に立つ 図画工作の授業の工夫』1995年、70頁）です。

理念を具体的に体感してもらうために「自分を伝える」絵をB4画用紙にパス類で描かせ、毎回5作品（5人だと安心：TV番組に準えゴレンジャー方式と命名）をスライドに並べ、何を描いたかと表現の工夫を順に発表させます。次の人が批評、授業者も助言します。批評の三観点は1）造形要素：色彩・テクスチャ・形態、2）空間限定性：点・線・面・立体・空間、3）適否条件性：うごき・ひかり・位置・方向・数・量です。回が進むにつれ表面的な上手下手ではなく、一人一人が何をどう表したいかが理解でき、受講生同士の相互理解が深まります。「理解は愛の源」であり「愛は理解である」に通じます。

教師は自分の言葉で語る力が不可欠、5回分の授業感想欄を設けたA4用紙に毎回、受講で感じ考えたことを記述させ、提出された中から優れた記述を毎回3名、本人に読ませます。発表者には自信の形成、多様な優れた感受の学びになり、教え込みでない文章力の向上が生じます。縦横3×4cmの枠に、「自分の顔、昨日の夕食、好きな乗り物、高山からの風景、大好きな人の顔、環境問題への自分の考え」等を毎回色鉛筆で描かせます。わずか15回で、ほぼ全員が描画力の向上に気づき驚きます。

成績評価の観点を「課題以上の取組A、ほぼ課題の取組B、消極的な取組C」と明示、挨拶声出し・顔出し・共感の拍手・予習復習など授業評価の積極性が80%超でした。傲慢でなく創造的な授業者になるためには《反省的自己的確立》が重要、それが最終小論文評価の観点、筆者の課題でもあります。

## ■令和4（2022）年度第12回定時総会 招集通知■

下記の要領で定時総会を開催いたしますので、会員の皆様はご出席のほどをお願いします。

- 日 時：令和4（2022）年5月15日（日）13：00－13：50
- 方 法：オンライン開催（Zoom）  
ミーティングID：882 1921 8035 パスコード：436307（会員専用）  
QRコード並びにURLは連合ホームページ（<http://insea-in-japan.or.jp/>）に掲載します。
- 議 案：①第7期役員選出 ②令和3（2021）年度事業報告・決算及び監査報告  
③令和4（2022）年度事業計画及び収支予算案の報告、その他  
（詳細は連合ホームページをご覧ください。<http://insea-in-japan.or.jp/>）
- 出 欠：ご欠席の場合は、委任状を必ずご送付ください。
- 記念シンポジウム：令和4（2022）年5月15日（日）14：00－16：00
- 方 法：オンライン開催（Zoom）  
URL/QRコードより「Google Forms」にアクセスして事前申込み  
（詳細は連合ニュース案内・連合ホームページをご覧ください。）
- テーマ：「美術教育から国際交流を考える」

## ■第55回美術教育研究発表会2021報告■

研究局担当理事 結 城 孝 雄

□開催日時：令和3（2021）年10月17日（日）9：00-15：00

□会 場：オンライン Zoom 各設定Room内

□参加費等：参加費500円（概要集代として）

『日本美術教育研究発表会 概要集2021』をオンラインで配布

□主 催：公益社団法人 日本美術教育連合

□後 援：文化庁

発表件数：24件のご発表（22件の通常発表と2件のモジュール発表）

参 加 者：64名

去る令和3（2021）年10月17日に第55回日本美術教育研究発表会2021が開催されました。今年度もコロナ禍での開催として、オンラインZoomリアルタイム配信、5会場での開催となりました。

本法人がリアルタイム配信で研究発表会を実施する理由は、発表者と参加者の対話、議論を重視したいとの理由で実施しています。情報漏洩や予期せぬアクシデントの懸念から、1週間前にリハーサルを実施、参加者の皆様には申し込みの際に参加の際の信義事項として、Web上のマナーとルールをお願いしております。昨年度、今年度、2度のリアルタイム配信を実施しましたが、大きな支障もなく、参加者の皆様のご協力で研究発表会が運営できましたことに心より感謝申し上げます。

**第55回  
日本美術教育  
研究発表会2021  
A会場**

**セキュリティの確保**

- ▶ アクセス情報を他者に知らせないこと。
- ▶ 発表者の発表データを無断で流出しないこと。
- ▶ 参加者の画像を無断で録画・撮影しないこと。

**参加者の信義事項の要請**

- ▶ Accessコードを他者に知らせない。
- ▶ 研究発表の発表資料を無断で画面から記録しない（発表者が資料配布する場合はこの限りではない）。
- ▶ 参加者の画像を記録しない。
- ▶ 発表進行への協力

**発表者の著作権・肖像権の遵守**

- ▶ 発表者は、著作権を遵守し、肖像権を尊重した発表を実施すること。
- ▶ そのために使用する画像、データ等、著作権・肖像権に抵触しないことを必ず事前に確認すること。

**参加に際しては、これを承認されたものといたします。**

**注意事項**

- ▶ 各室入室の際は、チャットに所属とお名前を明記してください。
- ▶ ご質問は、随時チャットにご記入ください。質疑応答の際、この順序でご発言いただきます。その際は、所属とお名前をお願いいたします。
- ▶ 質疑未了の際は、時間終了後、次の発表準備が始まるまで継続可能です。
- ▶ 予鈴15分1鈴 20分2鈴 発表停止 質疑応答 なければ発表継続、25分発表終了

公益社団法人 日本美術教育連合

## ■日本美術教育連合■ 造形・美術教育力養成講座〈第7期〉について（報告）

事務局 三澤 一実

「造形・美術教育力養成講座」は2018年度から連続講座を開催してきました。連続講座では美術や美術教育を幅広くとらえ、社会における美術教育の理解を広げその拡充を図るとともに、子どもと造形表現に関する理解を深めたり、教育としての美術の可能性を考えたりするなど、講義と演習を通して教育実践力等を高める造形・美術教育力養成講座を実施してきました。2021年度もその趣旨を踏まえ、「越境し拡張する美術ーテクノロジーとコミュニケーション」をテーマに、①子どもと美術、②社会と美術、③障害者と美術の全3回の連続講座を開催しました。

2021年度の講座では、講師によるレクチャーや事例紹介と、簡単なワークショップを通して、テクノロジーが変えていくこれからの造形美術教育のあり方を考える切っ掛けを提供することができました。



### ①子どもと美術「デジタル社会を生きる子どもたちの『つくる』力」

日時：令和3（2021）年10月9日（土）

講師：NPO法人CANVAS 赤松 裕子 氏 窪村 永里子 氏

前半はこれまでCANVASが取り組んできたSTEAMワークショップや体験型ハンズオン展示の企画づくりで大切にしていることを、豊富な事例紹介をもとに多様な活動の様子を話していただきました。後半は、デジタルコンテンツを用いたミニワークショップ「スマホ顕微鏡でコラージュアートづくり」を体験した上で、STEAM教育の「A（アート）ってなんだろう？」についてグループディスカッションをしました。《参加者 29名》



### ②社会と美術「今日のデジタルテクノロジーを活用した造形表現」

日時：令和4（2022）年1月22日（土）

講師：武蔵野美術大学デザイン情報学科専任講師 大石 啓明 氏

コンピュータは、ネットワークに接続されることにより既存のメディアの枠を取り除き、その応用の幅を一層広げています。講演では、デジタルテクノロジーを活用した造形表現について、作品や実践の紹介とワークショップを交え、今日までの歴史と今後の展望について話しを伺いました。また参加者が指示を出し、講師がその場でプログラムを入力して動かすデジタル表現の簡単なワークショップを行いました。《参加者 23名》



### ③障害者と美術「テクノロジーで開く芸術体験～体拡張が可能にする芸術接点の未来型～」

日時：令和4（2022）年3月12日（土）

講師：(株)オリイ研究所 鈴木 メイザ 氏

前半は、OriHime開発元であるオリイ研究所の鈴木メイザ氏から多様な事例紹介と、OriHimeによって障害者の社会進出の事例などを伺い、後半は、参加者一人一人がOriHimeロボットを実際に遠隔操作するワークショップを実施しました。体験を通してZoomなどとのコミュニケーションの違いを体験し、それをふまえて、分身ロボット「OriHime」というツールを生かしてどのようなコミュニケーションが可能なのかを参加者全員で考えました。《参加者 17名》



公益社団法人日本美術教育連合主催

■ 《造形・美術教育フォーラム2021》の記録 ■

□演 題 **これからの美術教育を考える**  
- 答申(令和3年1月26日)からみた美術教育 -

□月 日 **令和3 (2021) 年12月19日 (日)**

□場 所 **Zoomオンライン会場**

□講 師 **平田 朝一 先生**  
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官他

99名が参加した《造形・美術教育フォーラム2021》講演の大意は、次の通りです。

□平田朝一氏のプロフィール

- 1970年 岡山市生まれ
- 1994年 岡山大学教育学部特別教科  
<美術・工芸>教員養成課程卒、  
岡山県公立中学校教諭
- 2003年 岡山大学大学院教育学研究科修了  
(岡山県派遣)
- 2012年 岡山県総合教育センター教科教育部  
指導主事
- 2017年 平成29年学習指導要領等の改善  
に係る検討に必要な専門的作業等  
協力者
- 2019年 令和元年評価規準、評価方法等の  
工夫改善に関する調査研究協力者
- 2020年 岡山県公立中学校指導教諭
- 2021年 現職

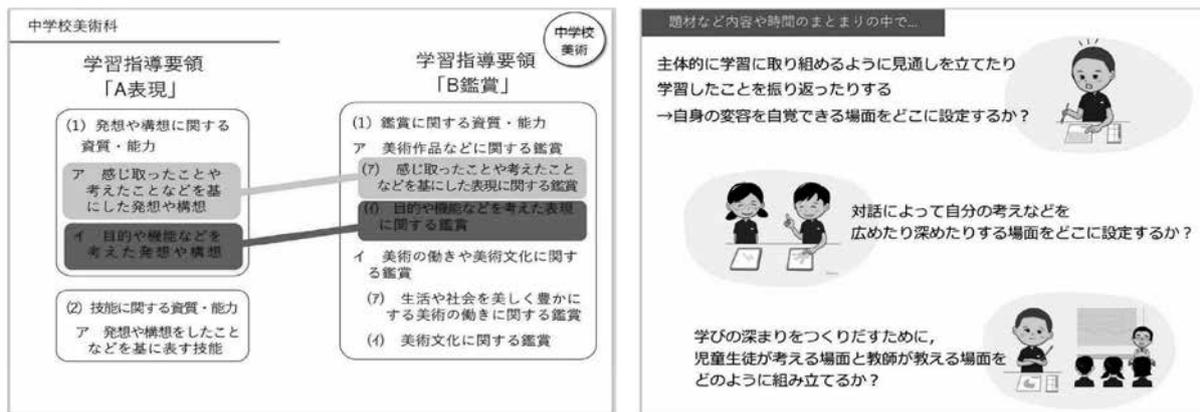
はじめに

令和3(2021)年4月から教科調査官を務めております平田朝一と申します。本日は、公益社団法人日本美術教育連合から、このような機会をいただき感謝いたします。

皆様におかれましては、昨年度から新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、本当に大変な日々を過ごされていることと思います。そのような状況下でも、子供たちの学びを止めまいと授業を工夫されたり、感染予防のために環境整備をされたりと努力いただき感謝しております。実際は皆様にお目にかかってお話しがたかったのですが、今回はオンラインの形でお話しさせていただきます。

現在、社会の在り方が劇的に変わるSociety5.0時代が到来しつつあります。我が国は、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想され、生産年齢人口の減少や、グローバル化の進展、絶え間ない技術革新等によって、社会構造や雇用環境は大きく、急速に変化しており、予測が困難な時代となっています。また、急激な少子高齢化が進み成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、多様性を原動力として、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されています。これからの子供たちのために、我々は図画工作や美術の授業で何を学ばせるのかを考えていく必要があります。

そのような中、学習指導要領が改訂になりました。小学校では昨年度全面実施、中学校では今年度全面実施、高等学校では来年度から年次進行で実施していきます。これからの図画工作や美術教育を



考えていく上でも、新学習指導要領の趣旨や内容を理解され、先生方の授業に反映し授業改善を行っていただきたいと思います。新学習指導要領のポイントについていくつか紹介します。

**新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりのために**

まず、「思い」と「主題」を大切にすることについてです。小学校の図画工作科では、学習指導要領の小学校図画工作科「指導計画の作成と内容の取扱い」に「児童の思いを大切にした指導」が示されています。また、中学校美術科の「A表現」(1)においては、「ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想」及び「イ 目的や機能などを考えた発想や構想」の全ての事項に「主題を生み出すこと」を位置付けて、表現の学習において、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描き、豊かに発想や構想をすることを重視しています。

次に、表現と鑑賞の指導の関連を図ることについてです。これは前回の学習指導要領にもありましたが、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することについてはさらなる充実が求められています。中学校美術科を例にすると、「2 内容」の「A表現」の(1)アイと「B鑑賞」アが関連できるように整理されています。表現と鑑賞は密接に関係しており、表現の学習が鑑賞に生かされ、鑑賞の学習が表現に生かされることが考えられます。このとき、発想や構想するときも鑑賞するときにも働く中心となる考えを大切にすることが重要です。「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、相互に関連を図って、特に発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習が深められるようにすること。そのためには、鑑賞の授業も充実させていくことが必要です。感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現に関する鑑賞とともに、目的や機能などを考えた表現に関する鑑賞の授業も充実させていくことが大切です。また、特に中学校では、美術の働きや美術文化についての鑑賞についても充実できるようにしていきましょう。ここでは、中学校美術科の漆器の鑑賞授業を紹介します。授業前に、生徒に地域の2種類の漆器について調査する宿題がでていました。授業の最初に、生徒に地域の漆器の特徴について発表させ、共有していきました。その後で、「漆器のよさは？」と聞くと生徒はよく分かっていないようでした。そこで、授業者の先生が「地域の漆や漆器のよさを感じ取ろう」と生徒に伝え、各班に配付された4つの漆器を鑑賞しました。はじめは、形や色彩などから地域の2種類の漆器はどれか考えていました。次に先生の「触ってもいいよ」の言葉で、生徒が触りだすと「とっても薄い」「すごく軽い」「つるつるして光沢がきれい」などと話をしていました。実はこの中の一つは、授業者の先生がお母様からいただいて大事に使ってきた漆器でした。使うごとに輝きを深めていくことを知った生徒たちからは、「漆器がこんなにすごいなんて知らなかった、地域の誇りです」「私も将来買って、大切にしていきたい」などの声があがりました。このように様々な鑑賞の授業を充実していくことが大切です。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善についてです。指導計画の作成に当たっては、題材の内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにします。その際に、造形的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図っていくことが大切です。主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善するために、題材など内容や時間のまとまりの中で次のことを大切にして欲しいと思います。主体的に学習に取り組めるように見通しを立てたり学習したことを振り返ったりするように、子供たちに自身の変容を自覚できる場面をどこに設定するのか。対話によって自分の考えなどを広めたり深めたりする場面をどこに設定するのか。学びと深まりをつくり出すために、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるのか、といったことを考えて授業を改善していきます。その際、造形的な見方・考え方を表現でも鑑賞の活動でも働かせていくことが大切です。この造形的な見方・考え方は、深い学びの鍵となるものです。今回の学習指導要領の小学校図画工作科から、中学校美術科、高等学校芸術科（美術、工芸）までの目標の柱書に、「造形的な見方・考え方を働かせて」が示されています。これは、中学校美術科を例にすると、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情を感じ取る力である感性や、創造力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくり出すことです。例えば、中学校美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方のことであり、美術科の本質に迫る学習につながっていきます。また、造形的な視点とは、造形を豊かに捉える多様な視点であり、形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりする視点のことであります。そのためにも〔共通事項〕を表現や鑑賞の学習において大切にすることが重要です。この〔共通事項〕は、高等学校の新学習指導要領において、芸術（美術、工芸）に今回新設されました。今回の改訂で〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を示したものであり、造形的な視点を豊かにするために必要な知識としています。形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉える視点、いわば木を見る視点と、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉える視点、いわば森を見る視点を大切にしてください。

続いて、ICT活用についてお話しします。「GIGAスクール構想の基での中学校美術科、高等学校芸術科（美術、工芸）高等学校美術科の指導について」を文部科学省のHPに掲載しています。図画工作科についても掲載していますのでご確認ください。また、ICTを活用する学習活動と、実物を見たり、実際に対象に触れたりするなどして感覚で直接感じ取らせる学習活動とを、題材のねらいに応じて吟味し、ICT端末を効果的に用いて指導を行うことが重要です。そして、ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう、十分に留意することも必要です。

「令和の日本型学校教育」答申（令和3年1月26日）に説明されているように、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来や新型コロナウイルス感染症拡大などから先行き不透明な「予測困難な時代」が訪れようとしています。一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要です。その際、ICTの活用や新学習指導要領の着実な実施が大切です。新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要です。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることが考えられます。社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうかが問われ、目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すことが求められているといえるのではないのでしょうか。

また、中学校美術科では、第2学年及び第3学年において「A表現」(1)イの「発想や構想」に「社会との関わり」があり、「B鑑賞」(1)イに「社会の中の」という言葉があります。「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すためにも、美術の働きや美術文化、伝統文化など、地域や社会と連携することが考えられます。

おわりに

中学校美術科の目標の柱書には「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」を育成することが示されており、小学校図画工作科でも高等学校芸術科（美術、工芸）でも確認しておくことが大切です。子供たちの未来を見据え、現在の授業で子供たちに何を学ばせるのかを、学習指導要領が実施される今、考える必要性があるのではないのでしょうか。

私が備前焼の鑑賞授業を行った後のお話しです。中学1年生の生徒が、お祖父さんが備前焼を買いに行こうとした時に、「僕も行く」と言って一緒に軽トラに乗って備前焼のお店に行ったそうです。そこで器を触って見つめる彼にお店の方が「その器どうだい？」と聞くと、彼は「触り心地がよくて、玉だれやさんぎりの色がとてもきれいです。」と答え、それを聞いたお店の方が「君のお家の方は備前焼作家？」と聞くと「いえ、美術の授業で学びました。」と答えたそうです。私たちの授業の先には、子供たちの未来があります。子供たちの今後を考えて図画工作や美術、工芸の授業をより充実できるようにしていけたらと思います。ご清聴ありがとうございました。

編集後記

昨年12月の《造形・美術教育フォーラム2020》は、教科調査官・小林恭代先生による図画工作の授業改善のご講演は好評でした。次は中学校美術担当の平田朝一先生ご講演への強い要望を受けて、7月起案〔写真右上〕で《造形・美術教育フォーラム2021》開催に至りました。コロナ禍のためZoomオンライン会場で、申込は「こくちーず」としました。日曜開催のため公的施設が使えず、コロナ対策を施し新橋駅近くの貸会議室〔同右下〕から発信しました。

文頭の写真は最後に顔を出して拍手が起こったシーン。参加者、スタッフ〔下右〕、小林・平田両先生に感謝いたします。(山口喜雄)



2021年7月6日起案  
長田・山口・橋本



2021年12月19日実施  
佐藤仁・平田・山口

参加申込99名の内訳				
会員別	会 員 30		非会員 69	校種・所属
所在都道府県				
北海道	4	山 梨 1	三 重 1	幼稚園 1
秋 田	3	長 野 3	鳥 取 1	小学校 20
宮 城	1	静 岡 4	岡 山 2	中学校 17
茨 城	3	岐 阜 4	広 島 2	高 校 4
栃 木	1	愛 知 4	島 根 2	特 支 2
群 馬	1	石 川 1	山 口 1	短 大 2
埼 玉	1	京 都 1	徳 島 1	大 学 23
東 京	18	滋 賀 1	福 岡 4	行 政 7
千 葉	4	大 阪 5	熊 本 5	美術館 3
神奈川	11	奈 良 1	大 分 2	出版社 8
新 潟	2	兵 庫 3	沖 縄 1	一 般 6
(合計 33 都道府県)				院 生 5
				学 生 1

運 営

企画・広報 (講師・担当役員等名／敬称略)

山口喜雄・橋本光明・長田謙一

理事会・運営委員会

講師仲介 小林恭代教科調査官

こくちーず 北川智久

Zoom 設定 結城孝雄

フライヤー 山口喜雄

Zoom 開場	結城孝雄	14:30
開会の辞	長田謙一	15:00 - 15:03
理事挨拶	結城孝雄	15:03 - 15:13
講師紹介	山口喜雄	15:13 - 15:15
講 演	平田朝一	15:15 - 16:45
謝 辞	橋本光明	16:45 - 16:57
司会・閉会の辞	山口喜雄	16:57 - 17:00

講師サポート 佐藤仁美

画像・写真 平田朝一・山口喜雄

大要執筆 平田朝一

編 集 山口喜雄

## ■公益社団法人日本美術教育連合主催 ■ 2022年定時総会記念シンポジウム■ 美術教育から国際交流を考える

参加費無料！ 定員100名 事前申込が必要です 一般参加可

公益社団法人日本美術教育連合はInSEA（国際美術教育学会）の加盟団体で1965年のInSEA「国際美術教育東京会議」以来、1998年のInSEA「アジア地区会議東京大会」及び2010年の「InSEA国際会議大阪大会」を始めとして数多くの美術教育関係者が、欧州・アジア等で開催される国際会議に参加し口頭発表やワークショップを行う支援をして参りました。近年は、InSEAに限らずオンラインを用いた国際交流の気運が各国で高まり、美術教育を通じた試みが様々な形で行われて斯界の関心を集めています。

今回の総会記念シンポジウムは、「美術教育から国際交流を考える」と題し、未来に向けた国際交流の可能性について語り合う機会にしたいと考えます。ゲストシンポジストの福本謹一先生はじめ、登壇者の皆様のお話に触れることで、国際交流に興味のある方が、一歩踏み出す切っ掛けになるよう企画いたしました。ぜひ、ご参加ください。

□日時 令和4（2022）年5月15日（日）14：00-16：00

□開催 Zoomオンライン

### ■シンポジウム参加申し込みフォーム■

参加希望の方は、下部URLかQRコードから「Google Forms」の項目にご入力いただくと、後日事務局からシンポジウム用ZoomのURLとパスワードをメールで送付いたします。  
(開催1週間前の5月8日頃送付予定)

申し込みURL

[https://docs.google.com/forms/d/1sG6vB8AT6hzHyZHy62-MCoIJ6dPpGBmPMSP\\_dbibUCo/edit](https://docs.google.com/forms/d/1sG6vB8AT6hzHyZHy62-MCoIJ6dPpGBmPMSP_dbibUCo/edit)



### □プログラム

- 司会 西村 德行 理事
- 14：00-14：05 開会の辞 大坪 圭輔 理事長
- 14：05-14：15 主旨説明 山口 喜雄 理事
- 14：15-14：40 ゲストオープニングトーク「私の国際交流アラカルト」福本 謹一 氏  
(兵庫教育大学名誉教授、兵庫教育大学先端教職課程カリキュラム開発センター特命教授)
- 14：40-15：10 第1部「国際交流の事例紹介」  
事例紹介①「アーティストとの交流を通して」江原貴美子 氏 (港区立筭小学校教諭)  
事例紹介②「国際協力・美術教育の視点から」山田 猛 氏 (東京造形大学教授・事業局局員)
- 15：10-15：15 (休憩)
- 15：15-15：40 第2部「InSEA（国際美術教育学会）紹介：アジア地域の活動を中心に」  
佐藤 真帆 氏 (千葉大学准教授、InSEAアジア地区評議員、国際局局員)
- 15：40-15：55 アフタートーク  
福本 謹一 氏・江原貴美子 氏・山田 猛 氏・佐藤 真帆 氏  
ゲストトーカー：茂木 一司 氏 (跡見学園女子大学教授・元InSEAアジア地区評議員、国際局運営委員)
- 15：55-16：00 閉会の辞 長田 謙一 美術教育連携交流担当運営委員

### □ゲストオープニングトーク



福本 謹一  
兵庫教育大学名誉教授  
兵庫教育大学先端教職課程カリキュラム開発センター特命教授

### □開会の辞



大坪 圭輔  
武蔵野美術大学教授  
公益社団法人日本美術教育連合理事長

### □主旨説明



山口 喜雄  
元宇都宮大学教授  
公益社団法人日本美術教育連合美術教育連携交流担当理事

### □事例紹介①



江原貴美子  
港区立筭小学校教諭

### □事例紹介②



山田 猛  
東京造形大学教授  
公益社団法人日本美術教育連合事業局局員

### □講演



佐藤 真帆  
千葉大学准教授  
InSEA アジア地区評議員  
国際局局員

### □ゲストトーカー



茂木 一司  
跡見学園女子大学教授  
元 InSEA アジア地区評議員  
国際局運営委員

### □閉会の辞



長田 謙一  
東京都立大学客員教授  
公益社団法人日本美術教育連合美術教育連携交流担当運営委員

### □司会



西村 德行  
東京学芸大学准教授  
公益社団法人日本美術教育連合国際局理事

□連絡先 nishimur@u-gakugei.ac.jp 西村 德行

※ご参加いただく方は、シンポジウム参加規定 (①Accessコードを他者に知らせない②著作権保護の観点から研究発表の録画・録音・撮影等を行わない③発表進行への協力) を遵守してください。

## ■これから行われる、InSEAの主なイベントについて■

国際局担当理事 西村 德行

### ■InSEAワールドフォーラム2022

期 日：令和4（2022）年6月20日～24日

フォーラムホスト：杭州師範大学、杭州、中国およびオンライン

テーマ：マッピング（芸術による教育）

InSEAワールドフォーラム2022は、「マッピング」（芸術による教育）をテーマにしたキーノートと、6地域のInSEA世界評議員が主催するオンラインウェビナーおよびワークショップによって実施されます。詳細はInSEAホームページで紹介されます。またイベントは複数の言語で開催されます。（日程は下部の図を参照）

20 June	21 June*	22 June*	23 June*	24 June
Global host: Hangzhou University	Asia & SEAP	Latin & North Amerika	AME & Europe	Global host: Hangzhou University
	Regional hosts			

### ■InSEA世界会議

期 日：令和5（2023）年7月4日～9日（予定）

会 場：チャナッカレ（トルコ西部）

チャナッカレ（人口約15万人）は、活気ある学生の街、魅力的な海岸の街、そしてダーダネルス海峡を境にアジア大陸とヨーロッパ大陸にまたがる地域です。トルコ西部のこの地域は古代ギリシャ神話に彩られ、その痕跡は多くの観光スポットとして見ることができます。最も有名なのはユネスコ世界遺産のトロイ遺跡（市街地から30km）です。

### ■ウェブセミナー

#### アジア地域ウェビナー

期 日：令和4（2022）年4月23日

テーマ：持続可能性：アジアにおけるアートによる地域活性化

#### ヨーロッパ地区ウェビナー

期 日：令和4（2022）年4月30日

テーマ：ACTING ON THE MARGINS：社会彫刻としての芸術

InSEA会員はウェブセミナーに無料で参加できます。詳細については、InSEAのニュースやホームページで紹介されます。

## ■ 役員改選について ■

第7期令和4・5（2022・2023）年度 役員改選選挙管理委員会 委員長 山田 一 美

「公益社団法人日本美術教育連合定款第25条」に定める役員の任期満了にともなう新役員選挙は、公益社団法人日本美術教育連合ニュース、No.163（2021年9月）にて予告された。理事会により役員改選選挙管理委員会委員長に山田一美が選出され、令和3（2021）年11月14日現在の有権者に対して、被選挙人名簿に15名以内の印をつける投票用紙を同年12月3日付で発送し、郵送による投票を同年12月31日（当日消印有効）締切として実施した。

開票作業は、令和4（2022）年1月8日に、東京学芸大学美術棟3F造形実習室にて行われ、選挙管理委員会の山田一美（委員長）、西村德行（理事）、北澤俊之（事務局長）が次のような手順で実施し、大坪圭輔（理事長）が立ち会った。

各投票用封筒の消印を確認後開封し、委員長が読み上げる被選挙人名簿の番号を2名が記録し、2名の記録の照合を行い、投票用紙及び集計表、無効投票を封印し、山田委員長が管理した。令和4（2022）年1月23日、オンライン形式で開催された第7回理事会において集計封筒を開封し、「公益社団法人日本美術教育連合定款細則2」に従い、得票数上位5名を報告し、理事会は第7期理事候補者を承認した。その後、理事候補者の中から1名の辞退者があり、令和4（2022）年2月19日の臨時理事会にて理事候補次点者をオンライン形式で報告し承認された。詳細は次の通りである。

有権者数229名、有効投票用紙数90、無効投票用紙数2、有効投票総数950票。  
理事候補者 西村 德行48票、北澤 俊之42票、大坪 圭輔40票、奥村 高明39票、三澤 一実37票、  
理事候補次点者：結城 孝雄35票。

上記の結果、理事候補者5名（西村 德行、北澤 俊之、大坪 圭輔、三澤 一実、結城 孝雄）は、令和4（2022）年5月15日（日）開催予定の令和4（2022）年度第12回定時総会に諮られる。

以上

事務局より

## ■事務局便り■

事務局長 北澤 俊之

### □会員の異動

〈退会者〉

中條 秀憲 様 (これまで連合を支えていただき、ありがとうございました)

〈入会者〉

青木 善治 様、中村 光絵 様 (どうぞよろしく願いいたします)



### □『日本美術教育研究論集 第55号』が発刊されました

すでに会員の皆様のもとに届けられていることと思いますが、今号の論集は14本の優れた論文を掲載することができました。加えて巻末には、「公益法人認定10周年記念シンポジウム」の記録も掲載いたしました。新型コロナウイルス感染拡大がやまず、研究計画も様々に変更せざるを得ない厳しい状況の中、ご執筆いただいた皆様には深く感謝申し上げます。依然コロナの終息がよめない中ではありますが、会員の皆様におかれましては、本年度も積極的に研究発表・論文執筆をご計画いただきますようお願い申し上げます。

### □年度の会費納入、ありがとうございました

本会の運営は、公益に資することを第一の目的として、会員皆様方の貴重な会費によって成り立っています。会員・賛助会員の皆様のご協力により、昨年度も「第55回日本美術教育研究発表会2021」「造形・美術教育力養成講座」「造形美術教育フォーラム2021」を開催し、それぞれ大きな成果をあげることができました。引き続き、皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。なお、3年連続会費未納入の会員様につきましては、残念ながら「退会」の対応をとらせていただくこととなります。昨年度の会費をまだお納めいただけていない方は、何卒至急ご入金いただきますようお願い致します。また、異動や住所変更等の際には、下記事務局まで、メールにてご一報いただければ幸いです。

○昨年度（2021年度）会費未納の方は、急ぎ会費6,000円を下記まで納入してください。

なお、本年度（2022年度）の会費納入については、次回のニュース165号（7月発行予定）にてお願いする予定です。

【郵便振替】（公社）日本美術教育連合 郵便振替00170-1-86036

※ゆうちょ銀行以外の金融機関（ネット銀行を含む）からの振込先

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

○お問い合わせ先（事務局）

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学文学部教育学科

北澤俊之 (E-mail : kitazawa@toyo.jp)

## ■令和4（2022）年度第12回定時総会 招集通知■

令和4（2022）年度第12回定時総会を下記のように開催いたします。総会終了後には記念シンポジウムも行いますので、あわせて多数ご出席くださいますようお願い申し上げます。

■日時：令和4（2022）年5月15日（日） 13：00－13：50

■方法：Zoomシステムによるオンライン開催

- ・ミーティングID：882 1921 8035 / パスコード：436307（会員専用）
- ・QRコード並びにURLは連合ホームページに掲載します。上記ミーティングID、パスコードを入力の上、入室してください。
- ・入室の際はニックネームでのご参加はご遠慮ください。お名前を確認の上、入室を承認させていただきます。
- ・当日、入室でお困りの際は連合公式メール（[info@insea-in-japan.or.jp](mailto:info@insea-in-japan.or.jp)）までご連絡ください。

■定時総会「出欠はがき」の提出にご協力ください

総会成立の可否は、公益社団法人法によって厳密に規定されています。必ず同封の「出欠はがき」（委任状含む）を返送していただきますようお願い申し上げます。

\*総会議案は5月1日以降、連合ホームページ（<https://insea-in-japan.or.jp/>）に掲載します。

## ■令和4（2022）年度定時総会記念シンポジウム■

■日 時：5月15日（日）14：00－16：00（総会終了後）

■方 法：Zoomシステムによるオンライン開催

■お申込み：URL / QRコードより「Google Forms」にアクセスして申し込み（詳しくは、本ニュース案内・HPをご覧ください）

■題 目：「美術教育から国際交流を考える」

■参加費：無料（会員以外の方の参加も大歓迎です。お知り合いの方に広く呼びかけていただければ幸いです）